

2022年5月2日 発行
社会福祉法人 尚徳福祉会
保育園与那原ベアーズⅡ
看 護 師

新緑の美しい5月。元気にあそぶ子どもたちの姿に、さわやかな風が吹き抜けます。ゴールデンウィークを楽しく過ごしたあと、心身ともにちょっと不安定になることも。ご家庭と連携をとりながら、お子さんのようすに気を配っていきたいと思います。

《 4月の感染症情報 》

報告なし

お知らせ

今年度の**歯科検診**の日程が決まりました。

6月14日(火)・12月19日(月)

●れんらくのーと袋に「令和4年度 身体測定表」を入れています。内科・歯科検診結果や毎月の身体測定値を記入しますので、ご覧になってください。結果の記入が遅れることもあります。ご了承ください。

●予防接種を受けましたら、体調の変化がみられることもありますので、れんらくのーとに接種日と予防接種名の記入をお願いいたします。

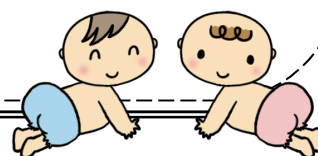
おむつかぶれ

おむつが直接あたる部分が炎症を起こした状態のことを言い、湿気や汗、カビ、サイズの合わないおむつの摩擦による刺激など、複数の要素が重なって起こります。

水っぽい便や尿が、肌に長時間付着すると、かぶれた状態になります。こまめなおむつ替えをして清潔に保つのが一番の予防法です。かぶれてしまったら、汚れをぬるま湯で洗い流し、柔らかいタオルで優しく拭き取り、適切な軟膏を塗りましょう。

Q おむつは排尿のたびに替える？

A 紙おむつは通気性、吸収力、漏れ防止など高機能化し、最大12時間交換しなくても大丈夫とうたう物まで販売されています。しかし、高機能化しても、尿の成分が赤ちゃんの皮膚と接触していることに変わりはなく、おむつかぶれの原因になります。また、排尿回数や尿量などの異常にすみやかに気づくためには、日頃から排尿ごとにおむつを交換する習慣をつけておきたいですね。



園でのマスクの着用について

園児

「子どもがマスクを着用する場合は、いかなる年齢であっても、保護者や周りの大人が注意することが必要です。感染の広がり予防はマスク着用だけではありません。保護者ととも集団との3密(密閉、密集、密接)を避け、人との距離(ソーシャル・ディスタンス)を保つことも大切です。」日本小児科学会より参照。

「2歳未満の子どもへは窒息の恐れなどからマスクの着用は推奨されていません。2歳以上はマスクの着用が無理なく可能と判断される場合に限り、可能な範囲でマスクの着用を奨めます。着用が難しいと判断する場合は無理に着用は奨めません。」

保育所等における新型コロナウイルスへの対応にかかる Q&A について (第十三報)より参照。

以上をふまえ、保育園では体調の変化に十分注意しながら可能な範囲でマスク着用をいたしますが、体調が悪い場合やマスク着用が難しい場合は、マスクを無理に着用しません。園庭などの屋外活動時は、熱中症予防のためはマスクは着用しません。

職員

園庭などの屋外活動時は、熱中症予防のため職員がマスクを外している事もあります。その他の感染対策(人と十分な距離2m以上を確保する、まめな手洗いや消毒など)は適切に行うよう配慮いたします。

⇒裏面へ

園児と接する際は必ずマスクを着用しますのでご了承ください。

子どもに目が届くような場面に限ってマスク着用を奨めるようにお願いします。

屋外で保育を行う場合は、着用を奨めません。

息苦しくないか、嘔吐していないか、口の中に異物が入っていないかなどの体調の変化について十分注意、随時確認。

調子が悪い場合や持続的にマスクを適切に着用することが難しい場合は、無理して着用させる必要はなく、マスクを取り外すこと。

子どもがふざけてマスクを取り外したような場合でも、無理に着用を求める必要はありません。

- 呼吸が苦しくなり、窒息の危険がある。
 - 嘔吐した場合にも、窒息する可能性がある。
 - 熱がこもり、熱中症のリスクが高まる。
 - 顔色、呼吸の状態など体調異変の発見が遅れる。